

自己投資の「朝活（勉強会）」（第3回）

1. 趣旨

プレゼンによる自己発信力の強化やディスカッションによる知識と経験の共有を図るため、脳科学の観点から頭を使う作業に適している朝の出勤時間前、適宜、主任研究員と研究員による勉強会を開催する。

2. 開催日時

12月20日（火）8:15~9:00に総研会議室で実施した。

3. 参加者

高野G長、高橋（直）主研、井上主研、仁後主研、佐々木研、中村主研

4. テーマ

世界経済の現状とそれを踏まえた今後の日本の展望

5. 主な発言概要

冒頭、事前に収集した情報及び資料を基に、世界経済の現状に関して、

- ・ 現在欧州で起こっている金融危機・財政危機の仕組み
- ・ 米国における財政・金融政策と株安の背景
- ・ 新興国におけるインフレ懸念と景気悪化懸念

等に関する話題提供があった。また、それに対する現在の日本経済の現状に関して、

- ・ 東日本大震災からの復興需要
- ・ 急速に進む高齢化と社会保障改革
- ・ 日本政府の債務残高と国債消化の将来

等についても情報提供があり意見交換を行った。主な発言内容は次のとおり。

- 現在は日本の国債はほとんどが国内で消化されているが、近いうちに日本の家計の全資産を政府債務残高が上回ることが予想されるため、国債消化を海外に頼らざるを得なくなるのではないか。そうなった場合、海外の市場や経済動向に大きく左右されることになり、日本経済が不安定になるのではないか。
- 国内で急速に進む高齢化の中で、社会保障をどのように改革していくかは、避けて通れない問題である。このままでは毎年社会保障費が増加していくが、将来にわたり日本の財政状況を安定的に保つためには、社会保障費の削減に切り込まないといけない時期に来ていると思う。

また、話題は震災からの復興需要や建設業界の内容にも及んだ。概要は次のとおり。

- 東北地方では、復興需要のため大工さんが不足していると聞いている。
また、例えば、土地改良事業においても、近年は補修事業がほとんどを占めているが、数十年後にいずれ施設を造り替える必要性が出てくるはずだが、その段階になったときのための技術継承はどうなるのか。その時のために技術者を確保しておく必要があるのではないか。

- 建設会社は、その時々時代の状況に合わせて施工や会社運営を行っているので、施設を新設する段階になればその対応は可能であると思う。例えばトンネル作業員は、高卒で入り 30 歳前後でやめる人が多い。そういう状況の中で、作業員に「技術の伝承のために仕事しろ」とは言いづらい。20 年後に技術がどうなるかは、その時点でなるようにしかならないのではないか。

- 将来は、世界的な貿易自由化の流れの結果、建設業界にも外資が入ってくるのではないか。極端な例では、例えば公示文書などもすべて英語となるような事態も想定される。建設業界においても国際的な競争力を一層つけていく必要があるのではないか。

以上